愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	総合演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	吉村 美路	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

【ゼミの概要/キーワード：体験型学習、組織コミュニケーション、心理】 なぜ同じ商品なのに、売れるセールスマンと売れないセールスマンがいるのでしょうか。チームを組んで活動したときのパフォーマンスが、個人のパフォーマンスの総数を超えたり下回るのはなぜでしょう。個人の遅刻や離職など、ネガティブな行動はなぜ生まれるのでしょう。 このゼミでは、一年を通していくつかの体験型学習をとり入れながら「自ら考え行動する」力を養成することを目指します。特に前期では、自身を含むチームメンバーの個性と、その集まりの中での自身の生かし方を体験から感じ取り、どう動くかを考えてください。社会の中で自身をどのように生かせるか、早い段階で考える習慣がつくはずです。学外の人々や団体との交流や活動の中から、皆さんが1人1人が何を感じ、どう成長するのかを楽しみにしています。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	学外活動・講義・演習の方法をとります。 グループワークや、必要に応じてディスカッションも交えながら進めていきます。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	【講義】オリエンテーション～自己紹介・スケジュール確認等～	自己紹介、ゼミの進め方・前期計画・成績評価の方法・学習の目的と目標・習得すべきスキルなどについて解説します。	□
第2回	【講義】「一人の天才の時代は終わった」組織における自己のタイプ・ゼミメンバーのタイプ（心理分析およびワークショップ） 【演習】体験型研究☒　：体験内容のとり決め	【講義】あなたができることは何ですか？ 組織心理きほんの「き」 ：色々なリーダーのタイプ 【演習】体験学習「お題」決定 →目的の明確化 →とり組み内容の選出 →日程決定	□
第3回	【講義】個人としての自分とチームの中での自分 【演習】体験型研究☒　：事前準備	【講義】やりがいは何から生まれるのか ：自己の価値観と他者貢献の天秤について 【演習】当日スケジュール考案 事前に準備するもの 自分は何を見て、何を考えたいのか	□
第4回	【講義】自己管理能力と成果の関係(1) 【演習】体験型研究☒　：事前準備	【講義】モチベーションはどこから生まれるのか ：社会的成功とモチベーション継続能力の関係 ：モチベーションはどうしたら維持できるのか？ 【演習】当日の役割分担の決定 →インタビュー内容や調査事項のリスト作成 →体験後にどのように成果を生かすか	□
第5回	【演習】体験型研究☒　：学外実習	【学外】学外での体験型実習へ行こう！	□
第6回	【講義】自己管理能力と成果の関係(2) 【演習】体験型研究☒　：事後の振り返り(1)	【講義】陰の努力ができることの大切さについて ：振り返りの大切さ ：自分のモチベーション推移を分析 【演習】事後アクション ：インタビュー内容分析 ：体験でお世話になった方へ事後アクション 何ができるか、どのような効果があるか	□
第7回	【講義】成果をアウトプットすることの大切さ(1) 【演習】体験型研究☒　：事後振り返り(2)	【講義】あなたらしさの表現と社会貢献☒ ：どのように成果をアウトプットするか ：他者に貢献するという視点 【演習】体験でお世話になった方へ事後の取り組み →アクション準備	□
第8回	【演習】体験型研究☒　：事後アクション	【演習】体験でお世話になった方へ、事後の取り組み アクション	□

第9回	【講義】成果をアウトプットすることの大切さ(2) 【演習】体験型研究⊠　：事後振り返り(3)	【講義】あなたらしさの表現と社会貢献② ：どう学び、どう生かすか ：体験の中で印象的だった事・伝えたい事 【演習】グループ形成～発表アイデア出し	□
第10回	【講義】成果をアウトプットすることの大切さ(3) 【演習】体験型研究⊠　：事後振り返り(4)	【講義】あなたらしさの表現と社会貢献③ ：情報をまとめる力 ：伝える力・コミュニケーション能力 ：他者に貢献するという視点 【演習】：発表骨組み部分各チーム発表	□
第11回	【講義】プレゼンテーション技術 【演習】体験型研究発表準備⊠	【講義】発表の構成「きほんのき」・パワポ技術etc 【演習】体験型研究発表準備⊠	□
第12回	【講義】プレゼンテーション技術 【演習】体験型研究発表②	【講義】発表における自分軸・ワクワクを大切にetc 【演習】体験型研究発表準備②	□
第13回	体験型研究発表⊠	【演習】前半チーム発表 ・発表に対するディスカッション	□
第14回	体験型研究発表②	【演習】後半チーム発表 ・発表に対するディスカッション	□
第15回	前期ゼミの総まとめ	前期の振り返りとまとめ	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習：次回授業のテーマについて、関連する自己の体験や印象的な事例をピックアップしておくこと（2時間程度）。 事後学習：講義で学んだことを再確認の上、自分なりに再考すること。課題が与えられたときは、その日のうちに解決するよう心がけてください（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

ゼミの中で毎回コメントペーパーを配布し、質問に関しては次回講義の冒頭で解説する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	リーダー・フォロワー・集団心理など組織心理に関する理論や事例を学び、説明することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	体験型の実地研修から、自ら課題を発見し、どのように解決するか考えることができる。自身のできることできないことを的確に判断し、周囲のリソースから協力を仰ぎ、課題解決案を進めることができる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	自分なりのリーダーシップスタイルを見つけ、そこに覚悟と思いを持って取り組むことができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

【その他：50%】学びの成果をプレゼンテーション大会の形で評価します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	教科書として購入する必要はありません。必要に応じゼミの中でプリントを配布します。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ダニエル・ゴールマン（2002）「EQリーダーシップ　成功する人の心の知能指数」日本経済新聞社	4532149754
2	小野義生（2013）リーダーシップ理論　日本実業出版社	4534050348
3		
4		
5		